

한통련 뉴스레터

제98호

発行:在日韓国民主統一連合 (韓統連)

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284
メール chuo@korea-htr.org ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方はchuo@korea-htr.orgまでご連絡ください。(メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください)

새해인사 新年あいさつ

在日韓国民主統一連合 委員長 宋世一 (ソン・セイル)



韓統連会員と
ニュースレター読者
の皆さん、新年あけ
ましておめでとうございます。
새해 복 많이 받으세요.
(セヘ ポン マニ
パドゥセヨ)

2024年を振り返る

韓統連は2024年の運動課題として△米国の戦争策動を破たんさせ、朝鮮半島と東アジアの平和を実現しよう△尹錫悦(ユン・ソンニョル)政権退陣闘争を前進させ、汎国民的闘争へと発展させよう△総選挙で尹錫悦政権に反対する民意を示し、尹政権を審判しよう△尹錫悦政権の対日屈辱外交に反対し、日本政府に植民地支配の歴史清算を求めよう△国家保安法の廃止と韓統連の名誉回復を実現しよう△組織を強化しようの6点を掲げ、積極的に運動を展開しました。

4月総選挙に際しては、選挙案内リーフレットの普及や「選挙を考える集会」の開催を通じた選挙キャンペーンを広く展開し、国外同胞の投票参与を督励して尹錫悦政権審判の一翼を担いました。

5月には「光州民衆抗争44周年 在日韓国人全国集会」を三重県・四日市市で開催し、前年5月の全国集会を機に国外で初

めて尹政権退陣を打ち出した韓統連は、継続して尹政権の退陣を強く要求しました。

自主統一平和連帯などが中心となり8月10日にソウルで開催した「戦争助長、韓米日・韓日軍事同盟推進 尹錫悦政権退陣! 8・15汎国民大会」に韓統連代表団を派遣し、国内同胞、韓日連帯勢力と共に、戦争を助長し軍事同盟を推進する尹政権に対し退陣要求の声を大きくあげると同時に、朝鮮半島と東アジアの平和実現を訴えました。

総選挙で国民から厳しく審判されたにもかかわらず、失政・悪政・暴政を平然と続ける尹政権に対する国民の批判世論が急激に広がる中、尹錫悦政権退陣運動本部は11月に2回にわたる退陣民衆総決起を成功させ、退陣要求の機運を盛り上げました。韓統連は全国代表者会議を開催し総決起に全的に連帯しました。

支持率10パーセント台を低迷しながら窮地に陥った尹錫悦は12月3日、戒厳令を宣布し、政権危機からの脱出と政権の維持・強化を画策しました。国民主権を否定し憲政秩序を破壊する戒厳令宣布はまさに内乱であり、首謀者は尹錫悦です。こうした暴挙を決して許さない国民と野党議員は、国会を守り抜き、戒厳令を解除しました。尹錫悦に対する国民の怒りは頂点に達しました。11日に1500団体で結成された「尹錫悦即刻退陣! 社会大改革!

非常行動（尹錫悦退陣非常行動）」が14日、国会前に200万人を結集し、尹錫悦弾劾訴追案の可決を要求する声をあげる中、同案は可決されました。民主化運動の成果を積み上げ民主共和国の基礎を築いてきた偉大な国民の勝利です。

韓統連は情勢推移にあわせて尹錫悦退陣を要求する宣伝ビラを3度にわたり作成し、全国で宣伝活動を集中展開しました。特に、「戒厳令宣布～解除～弾劾訴追案可決」と急転する情勢の下では、いわゆるニューカマー同胞とも力を合わせて東京、川崎、名古屋、大阪、神戸、小倉でキャンドル集会、スタンディング、ポスティングと様々な方法で声をあげ発信し、国内の闘争と連帯しました。

このように2024年は、尹錫悦退陣のために全力をあげて闘い、その結果、退陣を実現する情勢をつくり出した1年といえます。

2025年の主要課題は

2025年の主要課題は△尹錫悦退陣・民主政権樹立を実現し、社会大改革を推進しよう△光復80年、韓米日軍事同盟に反対し朝鮮半島と東アジアの平和を実現しよう△韓日条約60年、過去清算に基づく主権尊重・互惠平等の韓日関係を構築しよう△自主・民主・統一を堅持し、統一に向けて組織を強化しようです。

尹錫悦退陣・民主政権樹立を実現し、社会大改革を推進しよう

戒厳・内乱の首謀者・尹錫悦および同調・加担した軍隊と警察の上層部・閣僚・与党「国民の力」、すなわち戒厳・内乱勢力は、戒厳令宣布は違憲・違法ではないと強弁しながら正当化し、憲法裁判所（憲裁）の弾劾審理や合同捜査本部の捜査に対しては、恣意的な法解釈を盾に時間稼ぎをしながら証拠隠滅を画策し、ついには尹錫悦の逮捕にも公然と反抗するなど、内乱行為を継続していると言わざるを得ない状況です。すべては、自らの生き残りをかけ、次期大統領選挙での執権継続をねらう不法・不当な行為であり、そこには国民主権

を侵害し憲政秩序を破壊した反省も国民への謝罪も一切ありません。

憲裁の判断を漫然と待つのではなく、戒厳・内乱首謀者の尹錫悦と同調・加担勢力を逮捕・拘束・断罪し、そして尹錫悦を罷免し退陣させなければなりません。戒厳・内乱勢力を完全に一掃し、民主政権を樹立し、社会大改革を推進することが、わたしたちに課せられた重要な課題です。そのためには、キャンドルと広場の闘争をより力強く継続推進することを通じて、国民のパワーで戒厳・内乱勢力を徹底的に排除し、野党や憲裁に影響を与え動かすことが必要です。

尹錫悦退陣非常行動は尹錫悦を退陣させるための汎国民戦線としての役割を十分に果たすとともに、社会大改革を次期政権に実践させる、あるいは共に推進する構想力と実行力を発揮しなければなりません。単なる与野党間の政権交代の水準で終わってはなりません。前回のキャンドル革命の教訓はまさにここに 있습니다。政権打倒と社会大改革と次期政権構想は並行して追及されなければなりません。

尹錫悦退陣・民主政権樹立を実現し、社会大改革を推進しよう。そうして、真に自主的で民主的な政権の実現へと前進しよう。

※社会大改革については尹錫悦退陣国民投票の中で、次の10大項目が提示されています。1 経済的不平等および2 極化の解消、財閥改革 2 恒久的平和体制の構築、歴史正義と主権の実現 3 メディア・検察・選挙制度の改革 4 医療民営化の中止、公共医療の拡充 5 低出生・高齢化・社会福祉に対する国家責任の強化 6 すべての労働者の労働基本権の保障、非正規職の撤廃 7 入試競争の教育、大学序列化の廃止および大学無償化の実現 8 気候変動の解決、脱原発および再生エネルギーへの転換 9 食糧主権の実現、農水産物価格の保障 10 女性・障がい者・移住者・性少数者・都市貧民の生存および平等権の実現。

光復80年、韓米日軍事同盟に反対し朝鮮半

島と東アジアの平和を実現しよう

韓米日首脳の2023年キャンプデービッド合意により、韓米日軍事同盟の構築が飛躍的に進展しています。その中で、同盟関係にない韓日の軍事協力も目に見えて強化されています。

朝鮮半島と東アジアを中心に、さらにはインド太平洋とその先まで行動範囲にしようとする韓米日軍事同盟は、インド太平洋地域の豪州・ニュージーランドなどを加えたアジア版NATOともいふべき軍事協力体制の中心を担っています。加えて、朝鮮国連軍の再活性化に伴い世界的な多国籍軍の中心の位置にも組み込まれています（日本は朝鮮国連軍加盟国ではありませんが、地位協定を通じて日本内の米軍基地提供が認められているため、実質的な軍事関係にあります。横田飛行場に後方司令部が置かれています）。朝鮮半島有事の際には韓米日軍事同盟が朝鮮国連軍の名の下に実働化する可能性が高いということです。

また、米国が韓国に提供する拡大核抑止体制は必然的に核演習を韓米・韓米日合同軍事演習に組み込み、朝中ロとの緊張・対決状況を高める一方、韓米日と米国に連なる西側諸国は、朝ロの包括的戦略パートナーシップ条約に基づく朝鮮のロシア派兵を一方的に糾弾し、圧力を加えています。

西側諸国は「自由・民主主義・法治・人権」を普遍的価値と掲げ、朝中ロなどを「権威主義国家」として圧迫・攻撃します。しかし、こうした価値観の一方的な押し付けと西側特有の二重基準の適用は、グローバルサウスを中心とするBRICSなどから強い反発を受け、世界秩序は米国を中心とする一極構造から多極構造へと、言い換えれば「戦争と支配と搾取」から「平和と自主と共同繁栄」の秩序へと転換しつつあるのは周知の事実です。

こうした国際秩序の転換の中で、韓米日軍事同盟の構築を主導的に進めてきたバイデン米政権が、「同盟軽視」を対外政策とするトランプ政権に交代し、韓米日軍事同盟の旗振り役をしてきた尹錫悦政権が退場する予定です。トランプ政権の同盟軽視は「安保ただ乗り論」に基づくものですか

ら、具体的には韓国に対する米軍駐留経費の大幅分担要求としてあらわれるでしょうが、これを危機ではなく好機ととらえ、少なくとも垂直でなく水平的な韓米関係への転換を求める情勢をつくりだせる可能性が生まれます。そのためには、新政権には自主性を備えることが求められると同時に、それを後押しする国民世論の形成が必要です。民主政権を樹立し社会大改革を推進することの重要性がここにもあります。

今年2025年は光復80年を迎える年であり、民族史に残る光復80年としなければなりません。民主政権樹立の下で、韓米日軍事同盟に反対し、朝鮮半島と東アジアの平和を実現する決定的な転機をつくり出す闘いを展開します。

また、2025年は日本にとっては敗戦80年であり、米軍が広島と長崎に原爆を投下してから80年を迎える年です。解放・光復直前に宗主国・日本の地で無念にも被爆したわが同胞に想いをはせながら、米国の「原爆投下」という戦争犯罪を断罪し、日本が唯一の戦争被爆国としての責務を果たすよう求めなければなりません。

韓日条約60年、過去清算に基づく主権尊重・互恵平等の韓日関係を構築しよう

尹錫悦政権は、韓米日軍事同盟構築のための前提であり必須条件である韓日関係「正常化」を実現するために、韓日間の懸案である歴史清算問題を一方的な譲歩で解決するなど、民族の尊厳と歴史正義を放棄し、徹底した対日屈辱外交を展開しました。

戒厳令宣布後の激動する情勢の下で、韓日両政府は尹錫悦・岸田政権間で構築された、いわゆる未来志向の韓日関係について「いささかの变化もない」と確認を重ねながら、「韓日国交正常化60周年」を迎える今年2025年、60周年記念事業のためのロゴマークとキャッチフレーズ「両手を携え、よりよい未来へ」を発表しました。

世界で奴隷制と植民地支配に対する歴史清算の流れが発展する中でも、侵略戦争と植民地支配の責任を頑強に認めない日本

は、韓日条約を盾に、植民地時代の清算問題はすでに解決済みとする強硬な姿勢を崩しません。しかし、この点に関する解釈は韓日間で異なるにもかかわらず、あいまいにされたままです。韓日条約のこうした不備をそのままに、歴史清算問題を無視したままつくられる韓日関係は、主権尊重・互恵平等の関係からは、はるかに遠いと言わざるを得ません。「両手を携え、よりよい未来へ」は、現在の両政権次元で過去の歴史を無視したまま「未来志向」を唱えるスローガンでしかありません。

尹錫悦退陣後に誕生する民主政権が、民族の尊厳と歴史正義を厳然と守護しながら、日本との間で歴史清算を進め、韓日条約の見直しも含めて、主権尊重・互恵平等の関係を構築できるよう、韓日条約60年を契機に韓日連帯勢力とも力をあわせて運動を進めます。

あわせて、朝日関係の改善も重要な課題です。日本は安倍元首相の「拉致3原則」（拉致問題は日本の最重要課題、拉致問題の解決なしには国交正常化もない、拉致被害者の全員帰国）から抜け出し、ピョンヤン宣言に基づいて柔軟に交渉を開始する方向性を示すことです。合意を尊重する誠意ある姿勢が協議の扉を開くはずです。

自主・民主・統一を堅持し、統一に向けて組織を強化しよう

韓統連の目標は「民族の自主権を守護し、韓国の民主化と祖国統一を実現すること」です。簡潔に表現すれば、自主・民主・統一の実現です。そのためには、韓国に自主的で民主的な政権、つまり自主的民主政権を樹立することが求められます。自主的民主政権は対外的に自主（権）を堅持し、対内的に民主（主義）を徹底する政権です。この自主的民主政権は韓国の国民主権と国家主権に依拠して外勢の支配と干渉を排除し、民族の自主権に基づいて朝鮮に対し統一政策を進めることとなります。当然、南北海外のわが民族が合意する統一方案に沿いながら統一実現に向け運動と事業が展開されるでしょう。

現在、朝鮮は韓国を「敵対国」と憲法で

規定し、それまでの対南平和路線は破棄され、統一に向けた動きは現在、全くありません。朝鮮としては、2018年から開始した韓・米との対話路線の破たん、政権崩壊と吸収統一を掲げて対決政策を展開する尹政権の反民族性・反統一性を総括した結論のようです。

尹錫悦退陣後に誕生する民主政権がどの程度の自主性と民主性を備えるかは、前述したように、尹政権退陣非常行動に代表される尹錫悦の退陣を求める汎国民戦線が主張するところの社会大改革を、新政権にどう影響を及ぼし実現するかにかかっているといえます。

韓国においても、民衆がつくり出す歴史の進歩と社会の発展はたゆみなく続きます。すぐには自主的民主政権の樹立が困難でも、尹錫悦退陣・民主政権樹立の情勢転換は、自主的民主政権の誕生へと続く道を切り開くはずです。

祖国統一に不利な情勢を有利な情勢に転換できる可能性が生まれているといえます。韓統連は自主・民主・統一の路線を堅持し、統一実現の環境を1日も早く造成するために、組織を不断に強化しながら、運動を展開することがこれまで以上に必要であり重要です。

韓統連は自主・民主・統一を前進させ実現するために、今年2025年も奮闘する決意です。さらなるご支援をお願いしながら、皆さんが健康で充実した1年を過ごされるようお願いいたします。

（2025年1月7日）

在日韓国青年同盟 中央本部委員長 韓成祐 (ハン・ソンウ)



昨年末に務安（ムアン）国際空港で起きた航空機事故で犠牲になられた方に深い哀悼の意を捧げ、遺家族が一日でも早く穏やかな日を過ごせることを願います。

昨年は朝鮮半島情勢が一変した年になりました。朝鮮政府が年初の最高人民会議で「対南政策の転換」を発表し、統一政策の放棄を明文化しました。この決定に伴った各種措置が実行され、既存の南・北・海外の統一運動に多大な影響が及ぼされました。この情勢に至ったのは尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権による戦争挑発と、韓米日の事実上の軍事同盟化による軍事圧迫に根本原因があることは言うまでもありません。

国内情勢では尹錫悦が昨年12月3日、45年ぶりに非常戒厳令を発令し、韓国社会を大混乱に陥れました。尹錫悦が起こした事態は国政を麻痺させ、憲政秩序を踏みにじった内乱であり反国家行為そのものでした。全国的な闘争により弾劾訴追案が国会通過し、尹錫悦は大統領権限を停止させられ逮捕状まで発付されましたが、出頭

を拒否し警護員と兵士を動員して捜査を妨害するなど自身の権力を維持するためのクーデターを継続しています。また与党「国民の力」は弾劾訴追案採決の際に退席し、弾劾後は内乱首謀者尹錫悦の擁護に回るなど、内乱の共犯であることが白日の下にさらされました。

しかし尹錫悦が逮捕され、国民の力が糾弾されて、それで終わりではありません。いま韓国に最も必要なのは社会大転換です。韓国は建国以来、分断体制によって不条理がまかり通り正義が捻じ曲がる、異常な社会を続けています。12・3内乱でも「従北勢力」「反国家勢力」なるものを尹錫悦がでっち上げましたが、その論理は分断イデオロギーによって成立したものでした。

米国により主権が奪われ、米国の意向によって国政が左右される異常な国家体制から一刻も早く脱却しなければなりません。その重要な闘いに本年が位置付けられていると考えます。

わたしたち韓青は昨年の組織的成果を継承しながら、本年も祖国の自主的平和統一と在日同胞青年の民族的解放のため全力を尽くします。新年を迎えて、皆様のご健康とご多幸を心より祈念いたします。

정세 情勢

●尹錫悦を即刻逮捕し、戒厳・内乱勢力を拘束・処罰し一掃しよう！



雪中、徹夜籠城し尹錫悦逮捕を要求する市民

尹、捜査本部の逮捕に抵抗

尹錫悦（ユン・ソンニョル）による「非常戒厳」を巡り、内乱と職権乱用の容疑で捜査している高位公職者犯罪捜査処（高捜処）や警察などの合同捜査本部は1月3日、先月31日にソウル西部地裁から発布された拘束令状と搜索令状をもとに、ソウルの大統領公邸にこもる尹錫悦の逮捕を試みたが、尹側は車両と警護員・兵士の壁で

抵抗し、失敗に終わった。

高捜処は「現場の人員の安全に懸念があった」と指摘。警護員らの抵抗により「事実上、令状執行は不可能と判断した」と説明した。

一方、尹側の弁護団は声明で「不法かつ無効な令状執行だ」と主張。「執行過程の違法状況について法的措置を取る」と強調した。

公捜処は4日、大統領の権限を代行する崔相穆（チェ・サンモク）経済副首相兼企画財政部長官に対し、尹錫悦に対する逮捕令状執行に応じるよう大統領警護処に命じることを求める文書を再度送ったが、崔氏は反応を示していない。

公捜処は6日、この期限を迎える尹錫悦に対する拘束令状について、合同捜査本部が期限延長のために同地裁に令状を再請求したと明らかにした。

尹、弾劾審判に出席の意向

尹錫悦の代理人は5日、尹錫悦が憲法裁判所（憲裁）の弾劾審判に出席し、意見を述べる予定だと明らかにした。

憲裁は第1回弁論14日から16、21、23日、2月4日までの弁論期日を決めている。憲裁の裁判官は現在8人（定数9）で、6人の賛成で弾劾が決定する。

非常行動、徹夜籠城で逮捕要求

尹錫悦逮捕という局面を迎え、「尹錫悦即刻退陣！ 社会大改革 非常行動（非常行動）」は3～6日まで、大統領公邸が位置するソウル竜山区漢南洞で、「尹錫悦即刻逮捕 緊急行動」として尹逮捕を求める3泊4日の徹夜籠城闘争を厳寒の中で展開した。

集約集会で民主労総のヤン・ギョンス委員長は参加者に向け「感謝する。最後まで闘おう」と訴えた。非常行動は11日に光化門で汎市民大行進を開催する。

米国務長官、「リーダーシップを信頼」

崔副首相は6日、政府ソウル庁舎でブリンケン米国務長官と会談した。

崔氏は、米国が韓米同盟と韓国の民主主義に変わらぬ支持と信頼を示してきたこと

に謝意を表し、「ブリンケン長官の訪韓は、それ自体が揺るぎない韓米同盟を示している」と述べた。

ブリンケン氏は「米国は韓国の友人として韓国民主主義の底力はもちろん、崔代行体制のリーダーシップを完全に信頼する」としながら、「米国の韓国防衛公約には一寸の揺るぎもない」と強調した。

ブリンケン氏は趙兌烈（チョ・テヨル）外交部長官とも会談した。

尹錫悦を即刻逮捕し、内乱勢力を一掃しよう

尹錫悦を首謀者とする戒厳・内乱勢力はいまも内乱を継続している。

尹錫悦は自身への弾劾訴追案の可決に対し「決してあきらめない。最後まで闘う」と自らの行為を正当化しながら開き直り、憲政秩序を破壊し国民主権を侵奪したことに一切の反省も謝罪もないまま、恣意的な法解釈を盾に時間稼ぎと証拠隠滅を画策している。さらには物理力を行使して逮捕に抵抗するという前代未聞の違法行為を平然と繰り返した。このような人物が大統領であり、検事総長であったとは、いまさらながら驚くばかりである。

戒厳・内乱に同調・加担した軍隊・警察の上層部、閣僚、与党「国民の力」も尹錫悦を擁護することに余念がない。崔副首相は尹錫悦の逮捕に非協力的な態度で終始している。すべては保身のために尹錫悦の帰還を願い、執権継続を狙ってのことである。

米国はブリンケン氏を通じて、崔代行体制への全幅の信頼を強調しながら、情勢の早期安定化を要求した。露骨な内政干渉であり、戒厳令宣布に米国は関与したのではとの疑念は払しょくされていない。韓国の現在と未来は韓国民が決定することであり、いま求められているのは形式的で表面的な「国政安定」ではなく、国政をびん乱し続けている戒厳・内乱勢力を全面的に排除することにある。

非常行動は、キャンドルと広場で尹錫悦の逮捕と内乱勢力の拘束・処罰を連日要求している。尹錫悦を即刻逮捕し内乱勢力を一掃しなければならない。

（2025年1月7日）

활동보고 活動報告

●最高裁、尾澤孝司氏の上告を棄却…尾澤氏、怒りの抗議



控訴審判決に抗議する尾澤氏（9月11日）

最高裁は12月23日、尾澤孝司氏の上告を棄却した。

尾澤氏は「とても残念で、怒りで一杯です」としながら、関係者に対してこれまでの支援に感謝の気持ちを語った。尾澤氏のメッセージを紹介する。

サンケン弾圧・尾沢裁判の上告棄却を弾劾する

12月24日、最高裁判所から尾澤裁判の「上告棄却」通知がきました。棄却理由

は「上告趣意は、憲法違反という点を含め、実質は単なる法令違反、事実誤認の主張であって、刑訴法405条の上告理由にあたらない」というものです。

12月4日に弁護団と被告人の上告趣意書を提出しました。それから3週間たらずです。余りにも早すぎます。控訴審では3人の学者の意見書を証拠採用しなかったため、今回上告趣意書の添付資料として意見書を添付して提出し受理されたことから、上告趣意書の内容を十分に検討したとはとても思えません。

最高裁の拙速な上告棄却は、控訴審において全く審理を行わないで判決をくだしたことを最高裁が容認し、最高裁自身も全く同じ誤りを犯したと言わざるを得ません。最高裁上告棄却は、憲法31条、37条違反であり、裁判の3審制を否定するものです。最高裁自身が憲法違反を犯しています。余りにも残念です。とても悔しいです。怒り以外にありません。上告棄却に強く抗議します。

●活動レポート



米軍基地前でのアピール

横須賀反基地平和デモ、宋世一委員長がアピール

「非核市民宣言運動・ヨコスカ／ヨコスカ平和船団」は2024年最終となる月例の反基地平和デモを12月29日、横須賀市内で開催した。コースは汐入駅前のヴェ

ルニー公園～海上自衛隊横須賀総監部～米海軍横須賀基地前～横須賀中央駅前～横須賀市役所前公園。韓統連の宋世一（ソン・セイル）委員長が出発集会で連帯あいさつ。尹錫悦（ユン・ソンニョル）弾劾訴追案可決を中心とする韓国情勢を解説しながら、戒厳・内乱勢力の一掃、民主政権の樹立、社会大改革の実現の重要性を強調した。また、韓米日軍事同盟の構築により横須賀基地が頻繁に活用されている危険性を指摘した上で、韓・米の首脳交代という変化の下で、軍事同盟にも変化をつくりだせる可能性が生まれていると主張した。デモ終了後は同事務所で送年懇親会が開かれ、参加者は2024年を振り返り、新年の展望を語り合った。

■韓統連ホームページ、日々更新しています

韓統連ホームページでは、朝鮮半島情勢や私たちの活動予定・報告などを日々アップしています。また、講演や集会の動画を韓統連ユーチューブチャンネルで配信しています。あわせてぜひご覧ください。



韓統連ユーチューブチャンネル



韓統連ホームページ

韓統連ホームページ

<https://chuo.korea-htr.org/>

韓統連ユーチューブチャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCg_8NZg52O1VTAMlgrXfqjQ

행사예정 行事予定

1月

第1回韓統連セミナー2025(大阪)

日時: 1月26日(日) 午後1時30分開場、2時開会 場所: 東成区民センター6階 602号室 内容: 〈～朝鮮半島と日本の80年～その1 「8.15解放、自主独立に向かう祖国と日本」〉 (講師: 金昌範(キム・チャンボム) 代表委員) 参加費: 800円(青年学生500円) 主催: 大阪本部 連絡先: 090-3822-5723 (崔)

情勢学習会(神奈川)

日時: 1月26日(日) 午後2時開始 場所: 神奈川本部事務所 内容: 情勢講演(講師: 李俊一(イ・チュニル) 事務長) 主催: 神奈川本部 連絡先: 090-1049-4261 (文)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年末の戒厳令宣布から弾劾訴追案可決、逮捕をめぐる攻防と、韓国の情勢は激動のさなかにあります。一日も早く尹錫悦を退陣させ、韓国の民主主義を回復させていきたいと思ひます。今年もよろしくお祈りします(李)

<p>謹賀新年</p> <p>韓統連中央本部</p> <p>委員長 宋世一</p>	<p>謹賀新年</p> <p>韓統連神奈川本部</p> <p>代表委員 文世賢</p>
<p>謹賀新年</p> <p>韓統連愛知本部</p> <p>代表委員 趙基峰</p>	<p>謹賀新年</p> <p>韓統連三重本部</p> <p>代表委員 金相祚</p>
<p>謹賀新年</p> <p>韓統連大阪本部</p> <p>代表委員 金昌範</p>	<p>謹賀新年</p> <p>韓統連兵庫本部</p> <p>代表委員 崔孝行</p>
<p>謹賀新年</p> <p>韓統連広島本部</p> <p>代表委員 尹康彦</p>	<p>謹賀新年</p> <p>在日韓国青年同盟中央本部</p> <p>委員長 韓成祐</p>
<p>謹賀新年</p> <p>在日韓国人学生協議会</p> <p>會長 高来烏</p>	<p>2025 을사년</p> <p>새해 복 많이 받으세요</p> 